

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所
士別市東7条9丁目
Tel0165-22-3100
fax0165-23-4356

会派を代表し、知事の考えを質す 代表質問に登壇

道議会は2年交代

道議会では、長年の慣例により、議長・副議長をはじめ、常任委員会や会派役員などを2年で交代することとしています。

北口道議は、前半の2年間は議会選出の監査委員を務め、後期は会派の会長に就任しました。



会派を代表して知事の考えを質問(10月17日)

現在の道議会は、最大会派の自民党が過半数を占めており、厳しい議会運営を余儀なくされていますが、「他会派とも連携し、コロナ対策などの課題解決に全力を尽くす」と決意を新たにしています。

建設委員会に所属

委員会は、建設委員会への所属となりました。近年の異常気象や災害対策など、施設の長寿命化やインフラ整備などの課題について議

論します。

また特別委員会は、産炭地域振興・エネルギー問題調査特別委員会所属となり、カーボンニュートラルや原発再稼働などの課題を議論します。

正副議長も交代

後期の人事では、正副議長も交代します。議長は最大会派の自民党会派から小畑保則氏(釧路市選出)、副議長は第2会派の民主・道民連合から市橋修治氏(後志地域)が、それぞれ選出されました。

道へ緊急要請行動

5月16日から北海道に対し緊急事態宣言が発せられたことを受けた鈴木知事は、全道域の飲食店に営業時間の短縮などを要請することにも、札幌市と石狩地方、小樽市、旭川市では、酒やカラオケ設備を提供する飲食店に休業を要請するなど、より強い対策を講じる方針を明らかにしました。北口道



中野副知事に緊急要請(5月27日)

議は会派を代表し、5月27日①時短などの要請事業者に対する十分な補償の実施、②宿泊療養施設の拡充や在宅療養者への健康管理体制の強化、③円滑なワクチン接種の支援、などについて、中野副知事に緊急要請しました。

来年度予算も要望

また、第2回定例会終了後の7月5日には、会派を代表し、令和4年度予算について、逢坂誠二衆議や勝部賢志参議に同行いただき、総務省や厚生労働省、国土交通省などへの要望活動を実施しました。

第3回定例道議会報告(9月14日~10月8日)

第2回定例会は、6月15日に開会、令和3年度一般会計補正予算や「地方財政の充実・強化を求める意見書」などを可決し、7月2日(金)に閉会しました。

臨時議会を開催

定例会に先立ち5月13日

令和3年度補正予算額			単位：千円
	一般会計	特別会計	合計
当初予算	3,252,995,666	1,027,182,980	4,280,178,646
臨時議会補正	21,941,481	0	21,941,481
2冒頭補正	75,095,584	0	75,095,584
2定終日補正	54,618,570	398,790	55,017,360
合計	3,404,651,301	1,027,581,770	4,432,233,071

(木)に令和3年第1回臨時議会を開催、コロナ対策として総額219億4100万円の補正予算を可決。この結果、令和3年度の一般会計予算総額は、3兆2749億円となりました。

2定では2度の補正

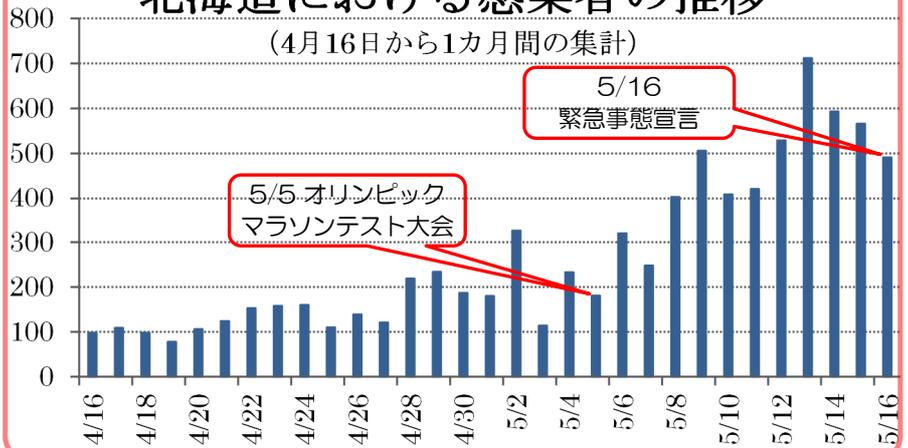
また、第2回定例会の冒頭では、緊急事態宣言が発令されたことに伴う緊急に措置を要する経費として750億9000万円の一般会計補正予算の先議を議決。最終日には550億1736億円の補正予算を可決し、一般・特別会計を含めた令和3年度予算総額は、4兆4322億円となりました。

国村度で感染爆発か

今年に入ってからの北海道の感染状況は、1月に緊急事態宣言が出された時点では、1日200人前後まで発生したものの、その後

北海道における感染者の推移

(4月16日から1カ月間の集計)



50人程度にとどまり、落ち着きを見せていました。しかし、4月中旬以降からは首都圏に緊急事態宣言が出され、また変異株による感染も拡大したことから新規感染者が増えだし、4月下旬には200人を超える日も出ました。感染爆発を心配した秋元札幌市長は、道を通じて感

染拡大防止に向けた取組を要請しましたが、緊急事態宣言やまん延防止措置を嫌がる国を付度し、最終的に国に要請したのは、東京五輪マラソンテスト大会終了後の、5月5日となったのです。この頃には新規の感染者は200人を超え、知事の国への要請の遅れが感染拡大につながったことは間違いなく、大型連休中の人の流れをもう少し抑えることができれば、ここまでの感染拡大はしなかったものと考えられます。

採択された決議・意見書

- 地方財政の充実・強化を求める意見書
- 選択的夫婦別姓制度の議論の活性化を求める意見書
- 学校教育におけるデジタルトランスフォーメーションを適切に進

【カウチウ】

▼佐々木隆博衆議院議員は、6月24日の連合後援会の総会において、次期衆議選に立候補しないとの勇退表明された▼佐々木代議士は、1987(昭和62)年に北海道議会議員に初当選以来5期連続当選。その後2005(平成17)年、衆議院議員に当選され4期務めた。この間、農林水産大臣政務官や農林水産副大臣などを歴任し、農業出身の議員として、第一次産業の振興発展にご尽力された▼佐々木代議士のキャッチフレーズは「もったいない汗、郷土に活力」。まさしく現場主義を貫き、ふるさとを大切にしながら地域の発展を守ることを信念としている。現在、農業出身の議員が少なくなっており、北海道の基幹産業である農業をしっかり守る事の重要性を再認識させていただいたところだ。(ゆうこう)